道路沿いで増加中　巨大植物ヨシススキ

長谷川匡弘

ヨシ？ススキ？

特別展「知るからはじめる外来生物〜未来へつなぐ地域の自然〜」の会場に入ると、奥の方にやたらと大きな植物が展示してあります。多くの方が気付くと思いますが（逆に大きすぎて気づかないかもしれませんが）、これが今回紹介するヨシススキ（*Erianthus arundinaceus*（Retz.）Jeswiet.）（**図１**）という外来植物です。

ヨシやススキは知っていても、ヨシススキという名前を聞いたことがある、という方はあまりいないのではないでしょうか。実際に見てみると、河川敷に群生するヨシというより、ススキに姿は似ていますが、はるかに大きくなります。ヨシの大きさは、環境によってもだいぶ違いますが、肥沃な河川敷で育ったものは４〜５ｍほどにもなり、ヨシススキに匹敵する大きさとなります。名前の由来は、ヨシのように大きくなるススキということで名前が付けられたのでしょうか。遠くから見た姿は、シロガネヨシ（パンパスグラス）（**図２**）にもよく似ています。シロガネヨシはアルゼンチンからブラジルにかけて分布し、よく公園などで栽培されていますが、時々空き地などで、おそらく土砂など共に運ばれ、勝手に生えていると思われるものを見かけることがあります。

ヨシススキについて

さて、このヨシススキですが、インドから東南アジア、中国南・中部、台湾まで分布しており、日本では外来植物とされます。特徴は何といっても大型になること（**図１**）。２〜３ｍになり、背の高さを超えるのは普通で、よく育ったものでは５〜６ｍにも達します。これほど大きくなる草本のイネ科植物は近畿地方には少なく、ヨシ、セイタカヨシ、ダンチク、トキワススキ、そしてシロガネヨシくらいでしょうか。やや難しくなりますが、ヨシススキの特徴的な部分を書いておきます。葉鞘の基部、口部（葉が茎に接する場所付近）は**図３ａ**のようにやわらかい毛で覆われています。葉舌は膜質で短く１−２㎜しかありません。小穂は柄が有るものと無いものの２種類があり、柄のある方の小穂の包頴（２つあります）は両方とも長く白い毛が密に生えています。柄が無い小穂の包頴は、一つは毛が少なく、もう一つは白い毛が密に生えます（**図３ｂ**）（Chen and Phillip 2006）。

図１ａ：ヨシススキ。東大阪市で撮影。穂は長く60〜70㎝ほどになる。大きな株立ちとなり密生して生育するため、一面ヨシススキだらけになってしまう。**ｂ：特別展会場のヨシススキと著者。**この株は５ｍほどの高さがある。運んでくるのは大変だった…。当然、展示ケース内には入らないので、外にどーんと出してある。

日本には、飼料や防風用として沖縄に持ち込まれ、かなり早くに人の管理下を離れて、野生状態でも見られるようになっていたようです（初島 1971、植村ほか 2010）。1959年発行の沖縄植物目録ではすでに「栽培及帰化」と掲載されています（沖縄生物教育研究会 1959）。ヨシススキはこのように、沖縄や九州南部では、かなり古くから野生化しているものが知られていましたが、それ以外の地域では、逸出している例は知られていませんでした。

ところが最近になって、全国あちこちから高速道路沿いの斜面などで、ヨシススキが増えているという報告が増えてきました（茨木ら 2015）。日本では、工事の際にできた斜面を植物で緑化することがよくあります。植物の根で斜面を固め、植物の体で雨を受け止め、穏やかに斜面に流してやらないと、降水量の多い日本では、斜面の土砂がどんどん流出してしまうのです。この緑化に用いる種子に、ヨシススキの種子が混入して増えているのではないかと考えられています。実際、緑化に用いられた中国産のススキの種子にヨシススキの種子が混入していたことが確認されています（山田 2015）。茨木ら（2015）では、群馬、神奈川、静岡、島根、香川、愛媛、徳島、宮崎、鹿児島、沖縄の各県での野生化を報告していますが、近畿地方には言及されていません。しかし実際には、東大阪市や和歌山市でも確認されています。しかし、これ以外の情報はほとんど無く、ヨシススキが近畿地方でどのくらい広がっているのか、実態はよくわかっていませんでした。

図 2 ：埋立地で見つけたシロガネヨシ。根が土砂とともに運ばれてきたのだろうか。これも大きなイネ科植物だが、ヨシススキに比べると小さく、穂の幅が広い。

「Project A」で分布情報を募集！しかし…

そこで博物館で実施していた外来生物調査プロジェクト「Project A」で、2017年からヨシススキの分布を調べてみることにしました。同時に情報の募集をしていたのはアメリカオニアザミ、コゴメイ、ナヨクサフジなどの外来植物でした。スター選手だっ

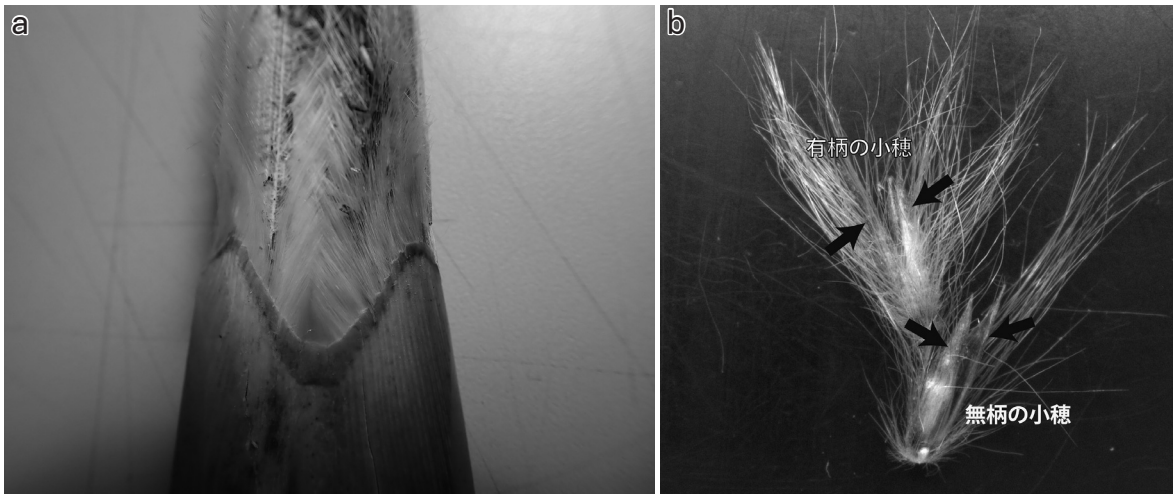

図 3 a：葉鞘の基部～葉舌。b：有柄の小穂と無柄の小穂。矢印が包頴で、背面は白く長い毛で密におおわれる。無柄小穂の包頴のうち、一つは毛が少ない。

た（？）アメリカオニアザミは都市部を中心にかなり増加しており、また、大変よく目立つということもあり、とてもたくさんの情報が集まりました。コゴメイも、ほぼ目標としていた数だけ情報が集まり、喜んでいたのですが、しかし、幸か不幸か、ヨシススキについては１年を経過しても全く情報がありませんでした。これは大きいとはいえ、イネ科という地味で名前を調べるのが難しい植物をターゲットにしたことが原因の一つでしょう（すみませんでした…）。もう一つの原因として、「気づきにくい」というのがあるかもしれません。近畿地方では高速道路沿いの斜面に生育しているパターンが最も多いのですが、数メートルになるとはいえ、高速道路沿いの斜面で育っていると、それほど大きくは見えません。あと、当たり前ですが、運転手が高速道路で運転しながらキョロキョロと探すことはできません（やってはだめです！）。工事現場の斜面に生育しているような場合でも、近づくのが難しいことが多く、遠くから確認するしかない場所が多かったです。きちんと同定するために標本を採集するのは結構難しいことがわかりました。博物館にも現在のところ、ヨシススキの標本はかなり少ないです。

そこで、2018年から19年にかけて、植物に詳しい方数名に聞き取り調査をするとともに、自分でも高速道路を利用する際、助手席の妻にヨシススキのような植物が無いか確認してもらいました。結果として、大阪府では東大阪市、茨木市など、京都府では京都市、奈良県では十津川村、三重県では答志島、和歌山県ではかつらぎ町、伊勢自動車道沿い、紀勢自動車道沿いなどで生育していることを確認しました。生育場所はいずれも道路沿いの斜面、もしくは工事現場の斜面といった環境でした（**図４：16ページ**）。慌てて集めた情報でしたが、ヨシススキは近畿地方にも点々と分布していることがわかりました。

ヨシススキが在来植物に及ぼす影響は？

ヨシススキは環境省の「生態系被害防止外来種リスト」にも取り上げられており、問題視されている外来植物の一つです。非常に大型で、株立ちとなり密生していくことから、同じ場所に生育している植物は悪影響を受けます。実は、**図１**のヨシススキの写真の下の方には、ススキの弱々しい穂が少し写っています。ヨシススキに囲まれていたこのススキは十分な日光が当たらないためかひょろひょろとしていました。このように、在来植物（草本）が同所的に育っている場合、ほとんどのものはその陰に入ってしまい、十分に生長することができないようです。ヨシススキの種子は風で散布されていき、広範囲に広がる恐れもあります。特に、絶滅危惧種の多い半自然草原付近では侵入に対する注意が必要でしょう。いったん侵入すると、強固な株を形成するため、その駆除はかなり困難です。

近畿地方でもあちこちにヨシススキがあることが分かってきました。現在見られる場所では、これ以上広がらないように、積極的に駆除していく必要があるでしょう。また、分布情報もまだまだ不足しています。外来植物の分布拡大を抑えるには、侵入初期に気付くことが重要です。大きなヨシススキに気付かれましたら、博物館までぜひお知らせください。

謝辞　尾上聖子氏、植村修二氏、山脇和也氏、山住一郎氏、和田岳氏には、ヨシススキの分布情報を提供していただきました。このほか数名の匿名の方から、ヨシススキ、またはそれと思われる情報を提供していただきました。厚く御礼申し上げます。

引用文献

Chen, S. and Phillips, S. M. 2006. *Saccharum Linnaeus*, 甘蔗属 gan zhe shu. In: Wu, Z.Y., Raven, P.H. and Hong, D.Y. (eds.), Flora of China 22, pp. 576-581. Science Press, Beijing, CN and Missouri Botanical Garden Press, St. Louis, USA.

初島住彦．1971．琉球植物誌（追加・訂正版）．沖縄生物教育研究会，那覇.

茨木　靖・大森威宏・勝山輝男・木下　覺・久米　修・木場英久・齋藤政美・野津貴章（2015）日本国内におけるヨシススキ*Erianthus arundinaceus* (Retz.) Jeswiet.（イネ科）の分布と生育状況について．植物地理・分類研究62(2)，pp. 85-92.

沖縄生物教育研究会．1959．沖縄植物目録．沖縄生物教育研究会，那覇.

植村修二・勝山輝夫・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹（2010）日本帰化植物写真図鑑第巻２巻、全国農村教育協会

山田　守．2015．ヨシススキ．日緑工誌．41(2)，352p.

＜**はせがわ　まさひろ**：博物館学芸員＞

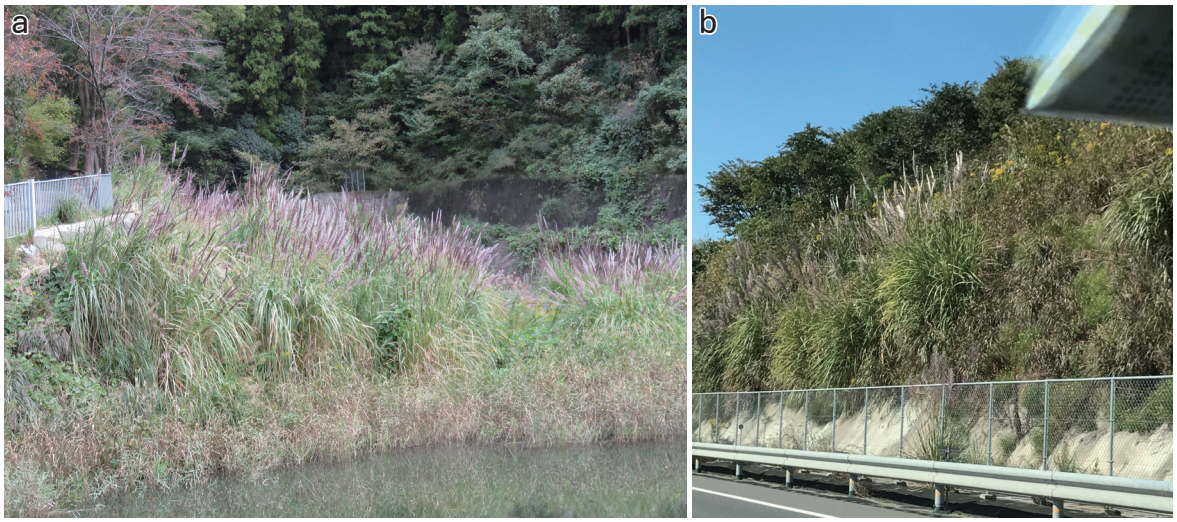

図 4 a：ヨシススキが、砂防工事後の斜面に一面に群生している。b：和歌山県内の高速道路沿いの斜面で育つヨシススキ。
いずれも、おそらく緑化に用いた種子にヨシススキの種子が混入していたのだろう。**本文は 4 ページ。**